

「ひんぱんと言いつつ？」を ロクせにせよ。

ひとことで「**名詞化**」することが、理解の入り口である。

①「去年、妹が帽子を買ってくれた。それを今日、初めてかぶった」

↓「それ」とは何か。ひとことで言うと、「帽子」だ。

②「仲間はずれにされているような感じを受けた」

↓ひとことで言うと、「疎外感」だ。

③「昨日は最高気温が一八度だったが、今日は二五度だ」

↓ひとことで言うと、「違い」の話だ（もしふたことでは、「最高気温の違い」となる）。

読解問題では、こういった「名詞化」が、強力な武器となる。

① 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

人間と他の多くの動物とをくらべたとき、大きな違いの一つとして挙げられるのは、時間と空間を超越する想像力の有無についてであろう。

多くの動物は、「獲物はいつ頃現れるか」「捕まえた獲物がどこにいるのか」などということを、考えて行動することはしない。いわば、「今・ここ」のことに反応するだけだ。ところが人間は、「今・ここ」を離れ、過去と未来あるいは目に見えない場所を想像することができる。

この人間の能力は、「自己を離れる」ことにも通じている。私たちは、自分自身のことを忘れ、他者のことを考えることができる。それは、「今・ここ」を超える力の一部であると言える。

しかし、こういった力があるがゆえに、私たちは苦悩を味わうことにもなる。終わったはずの失敗を忘れられ

ず悩み、まだ得られていない成果を皮算用して失敗し、あるいは、遠方に住む友だちのことを心配し、未来のわが子の人生について考えすぎて誤った判断をしてしまう。すべては、「今・ここ」を離れてイメージを自由にふくらませる力の存在ゆえである。

私たちは、日々の苦悩から解放されるために、ときには意識的に「今・ここ」の中に閉じこめる必要があるのかもしれない。

〈問い〉「今・ここ」の中に閉じこめる必要がある」とありますが、なぜそう言えるのですか。その理由を説明した次の文の空欄を埋めるのにふさわしい一三字の部分、本文中から抜き出しなさい。なお、記号・符号なども一字に数えます。

□の存在が、苦悩の原因になるから。

説明的文章
 文学的文章

記述式
 非記述式

言いかえる力
 くらべる力
 たどる力